

平成26年度中種子養護学校の取組

【 学校評価 】

1 工夫・改善した点

- (1) 学校評価に係るスケジュールの見直し
 - ・ 評価を改善に確実につなげることができるように、具体策を検討する場や期間を設けた。
- (2) 記名式による職員の自己評価アンケート
 - ・ 一人一人の職員が、主体的に又責任をもって学校評価に取り組むことをねらった。
- (3) 高等部生徒の学校評価への参加
 - ・ 生徒の意見や考えを学部経営に生かすとともに、生徒自身の自己評価を通して教師の生徒理解及び生徒の自己理解を図る。

2 学校評価の結果

- (1) 保護者によるアンケートにおいては、概ね高い評価を受けているが、より丁寧に保護者の願いや思いを吸い上げる工夫が必要である。
- (2) 職員による自己評価においては、日々の授業改善や研究など自分たちが実際に取り組んだ項目が高評価であった。一方、人権に関することや進路に関することなどを課題と捉える職員が多かった。

【 信頼される学校づくり 】

昨年度、「信頼される学校・教職員」について、職員の意見を基に次のように整理した。

- ① 児童生徒への丁寧な指導・支援ができる学校・教職員
- ② 保護者の期待に応え、しっかりと連携ができる学校・教職員
- ③ 地域の期待に応えられる学校・教職員

これらのことを実現するために、児童生徒や保護者、地域のニーズを適切に把握するとともに、学校の取組について分かりやすく情報発信することに努めた。

1 保護者や地域のニーズの把握

- (1) 傾聴やカウンセリング的対応など、職員の教育相談やコミュニケーションスキルの向上を図る。
- (2) 保護者アンケートの結果を基に、学部PTAや学級PTAで意見を聞く機会を設ける。
- (3) 「なかよう夏季セミナー」や「なかよう公開授業と研修会」において、中種子養護学校に期待する役割についてアンケートをとる。

2 学校の取組についての情報発信

- (1) 学校だよりの内容の見直し・充実
 - ・ 配布先を見直し、町の小・中学校、高等学校
 - ・ 見やすさ、分かりやすさの工夫をした。
- (2) 連絡帳や学級通信（週報）、学部だよりの工夫
 - ・ 校内での共通理解のための掲示等の工夫をした。（掲示板の設置）
- (3) 児童生徒の作品展示
 - ・ 龍星館、種子島空港等で作品を展示した。
- (4) 高等部だより「チャレンジ」の発行
 - ・ 高等部第1期生の卒業に合わせて、高等部の取組について紹介した。

3 その他（服務規律など）

- (1) 交通事故・違反等はなかった。
- (2) 高等部職員を中心に、出勤時の服装や身だしなみが整ってきた。
- (3) 私物のUSBメモリの使用など、個人情報の管理に課題がある。

4 来年度に向けての課題

- (1) ホームページ等の改善
 - 広報活動企画委員会を新設し、ホームページを初めとして広報活動全体を見直していく。
- (2) 個人情報の管理の徹底
 - 個人情報が含まれるデータへのパスワードの設定や、校内サーバーのフォルダの構成を見直していく。
- (3) 職員間のコミュニケーションの活性化
 - 小規模校のよさを生かし、学校教育目標や児童生徒の教育的ニーズ、指導観などの共有を更に図っていく。

メモ